



立命館大学国際平和ミュージアム平和教育研究センター
自衛隊基地の地域社会史プロジェクト 第3回研究会

自衛隊創立20周年パレード(1970年)
陸上自衛隊Facebookより

自衛隊史における退職者団体という存在 — 1960年、70年代における月刊紙『隊友』から —

発表

津田 壮章 (京都大学大学院)

コメント

福間 良明 (立命館大学)

2019

5/25 土

16:00~19:00

事前予約は不要です
直接会場へお越しください

発表者プロフィール

津田壮章(つだだけあき):
京都大学人間・環境学研究科博士後期課程在籍。軍事・平和を語る際に見落とされがちな軍事組織の周縁部分に関心を持ち、隊友会や民間防衛構想の研究をしている。他に、京都府立鴨沂高等学校でおこなわれていた学校行事を研究対象としている。
論文:「自衛隊退職者団体の発足と発展: 1960年代の隊友会を中心に」(『立命館法政論集』11号, 2013)



コメントプロフィール

福間良明(ふくまよしあき):
立命館大学産業社会学部教授。専門はメディア史、歴史社会学。
著書・論文:『「働く青年」と教養の戦後史 「人生雑誌」と読者のゆくえ』(単著) 筑摩書房(筑摩選書, 2017年)、『「野火」に映る戦後』福間良明『戦争社会学研究』2, 26-42 (2018年)ほか

立命館大学
国際平和ミュージアム
2階会議室

立命館大学衣笠キャンパスから東に徒歩5分

問い合わせ:
立命館大学国際平和ミュージアム
平和教育研究センター
☎ 075-465-8354
✉ peaceins@st.ritsumeai.ac.jp

本研究会は、基地問題を語る際に生じる自衛隊と米軍の区分を批判的に捉え直し、地域社会の歴史性から基地問題を語る新しい回路を模索するプロジェクトです。

共催: 科研費 基盤研究 (C) 「地域社会の「軍事化」をめぐる歴史社会学」